

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平4-106847

(43) 公開日 平成4年(1992)9月16日

(51) Int.Cl.<sup>5</sup>

H 01 M 2/30

識別記号 庁内管理番号

D 9157-4K

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全2頁)

(21) 出願番号

実願平3-9081

(22) 出願日

平成3年(1991)2月27日

(71) 出願人 000001203

新神戸電機株式会社

東京都新宿区西新宿2丁目1番1号

(72) 考案者 川口 安弘

東京都新宿区西新宿一丁目1番1号 新神  
戸電機株式会社内

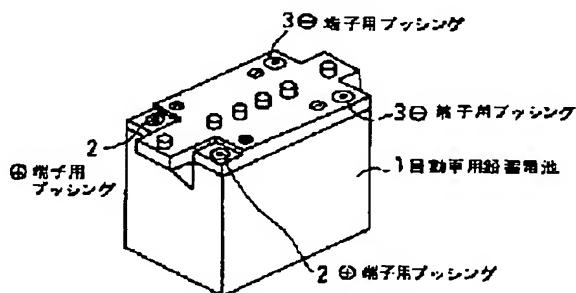
(54) 【考案の名称】 自動車用鉛蓄電池

(57) 【要約】

【目的】自動車用鉛蓄電池において、端子位置がRタイプ、Lタイプの電池の両方を共用可能な電池を提供することを目的とする。

【要約】

両端セルの上面両端部に+端子用ブッシング2、2、-端子用ブッシング3、3を取り付けて、これに+端子7、-端子8を取り付けるようにしたものである。



(2)

特開平4-106847

1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】自動車用鉛蓄電において、両端セルの上面  
両端部に同極性の端子部を設けてなる自動車用鉛蓄電  
池。

【図面の簡単な説明】

【図1】本考案の斜視図である。

2

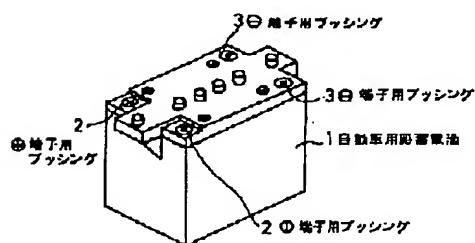
【図2】+端子および-端子の斜視図である。

【図3】本考案の要部断面図である。

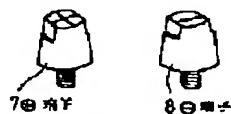
【符号の説明】

1は自動車用鉛蓄電池、2は+端子用ブッシング、3は  
-端子用ブッシング、2a、3aは接続導体、7は+端  
子、8は-端子

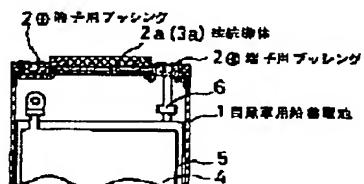
【図1】



【図2】



【図3】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は、自動車用鉛蓄電池において、極性により端子の位置が異なるRタイプ、Lタイプを共用できる自動車用鉛蓄電池に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、自動車用鉛蓄電池は、車種によって蓄電池の端子位置が異り、JIS規格においてもRタイプ、Lタイプの2種類があった。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】

しかしながら、上記従来の自動車用鉛蓄電池では、ユーザーが補修用の蓄電池を購入する際、自分の車の電池がRタイプかLタイプかの確認が必要となる。この場合、ユーザーが誤ってタイプをまちがって購入する可能性がある。

又、蓄電池製造メーカーにおいてもRタイプ電池、Lタイプ電池を生産する場合、同一形式で端子位置が変わるだけで製造ラインの型替えが必要となり生産性も悪いという問題点があった。

【0004】

本考案は、以上の点にかんがみてなされたもので、端子位置がRタイプ、Lタイプの電池の両方を共用可能な電池を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】

本考案は自動車用鉛蓄電池において、両端セルの上面両端部に同極性の端子を設けたことを特徴とするものである。

【0006】

【作用】

蓄電池を車に搭載する時、自分の車に合った端子位置になるよう電池の向きをかえることによって取付けられる。

【0007】

【実施例】

本考案の一実施例を図面によって説明する。

図1において、1は6セルからなる自動車用鉛蓄電池で、両端セルの上面両端部に+端子用ブッシング2、2、-端子用ブッシング3、3が形成されている。+端子用ブッシング2、2同志、-端子用ブッシング3、3同志は図3に示すように電槽蓋内で、それぞれ接続導体2a、3aで接続されている。4は陽極板、5はセパレータ、6は+端子用ブッシング2、2に接続された+端子極柱である。

【0008】

この電池を自動車に搭載するには、Rタイプ、Lタイプによって電池の向きを変えるだけでよく、自動車の負荷にリード線を接続するときは図2に示す+端子7、-端子8をそれぞれ+端子用ブッシング2、-端子用ブッシング3にネジ止めによって装着すればよい。

【0009】

【考案の効果】

上述したように、本考案によれば、ユーザーが蓄電池を購入する際に自分の車の電池がRかLタイプかの確認をする必要がなくなり、誤って購入することもない。

【0010】

又、蓄電池製造メーカーにおいても端子の位置によって製造ラインの型替えをしていたものが不要なくなり、生産の効率向上が大きいという効果がある。